

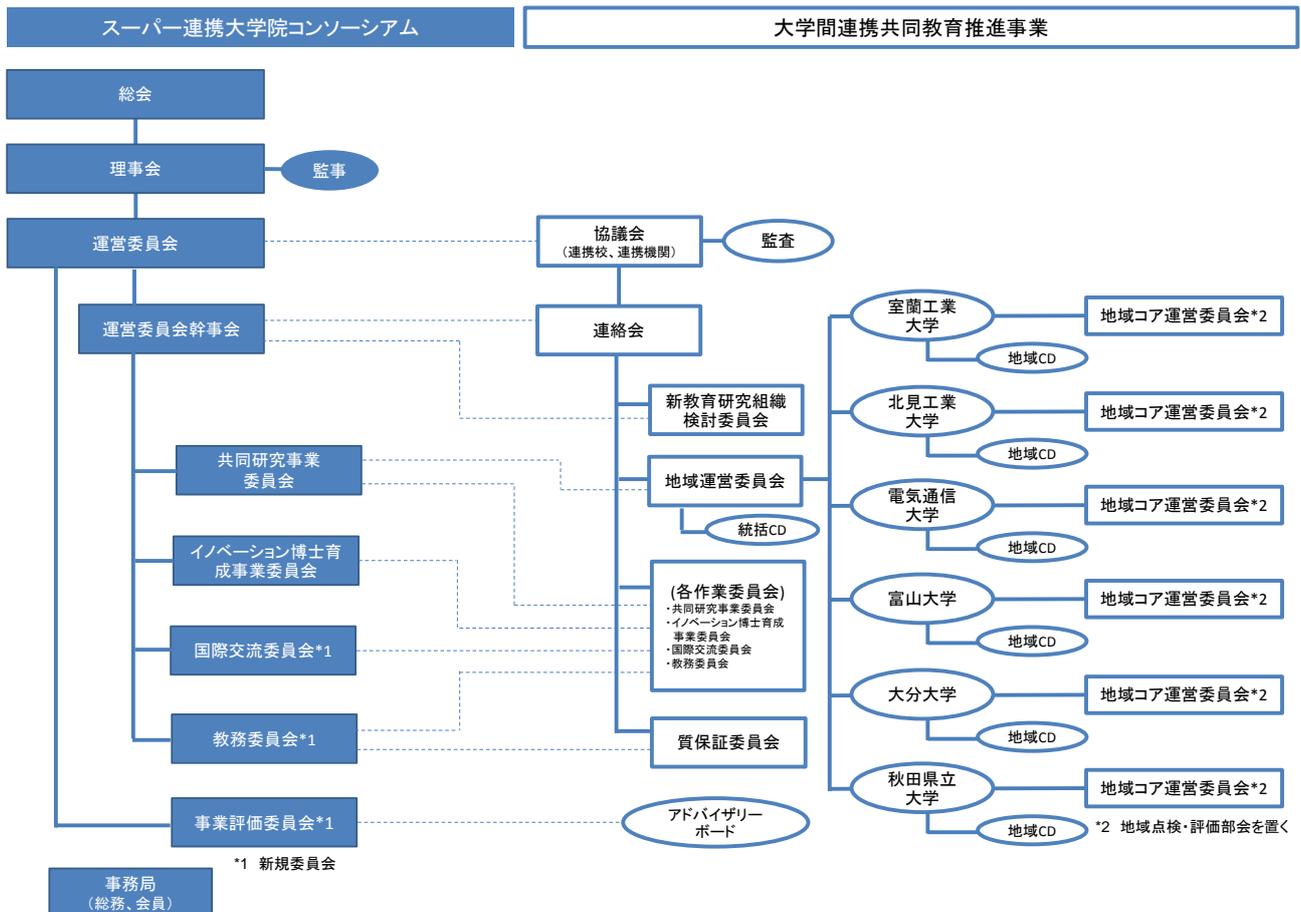
第Ⅱ部 スーパー連携大学院コンソーシアム

1. 概要

スーパー連携大学院コンソーシアム正会員6大学の共同実施にて文部科学省「平成24年度大学間連携共同教育推進事業」に「産学官協働ネットワークによるイノベーション博士養成と地域再生」の申請を行い、2012年9月3日に採択された。

本取組により、正会員6大学間連携を軸に産官との強い協働体制で、試行中の地域社会などアカデミア以外の様々な分野で活躍するイノベーション博士養成プログラムを基盤にし、地域の人材の育成と課題解決をセットにした全国ネットワーク型地域コアの体制整備と地域問題解決による多面的人材育成、その実績を踏まえて、地域や国公立大学を超え、産官も含めた国公立大学・公的機関・企業等の共同出資型教育研究組織設置による共同大学院運営を目指す。

本取組では、地域の大学が核となる産学官の連携コアを整備し、これらを広域連携させるネットワーク体制を構築し、この体制を活用する形で、広域の産学官による学位研究を推進する Industrial PhD 制度を創設することにより、全国ネットワーク型地域コアでの研究を加速し、地域に特化したイノベーション博士人材育成とともに、同時に、地域の活性化を目指す。さらに、地域を活性化させる人材育成の複線化やグローバル化を行う。



2. 教育関係

平成 24 年度(2012 年度)

1. 受講生募集

(1) 受講生募集

2012 年度春季募集として 2012 年 4 月入学者および入学予定者，秋季募集として 10 月入学者および入学予定者を対象として受講生の募集を行った。

2013 年度受講生の募集に際して，募集要項，履修要覧，講義一覧（カリキュラム表），共同研究テーマリスト，協力教員（研究室）一覧を準備し，正会員大学に配布した。また，同資料をホームページにも掲載した。

2012 年度春季（一次募集）

対象	2012 年度 4 月入学予定者
募集人員	14 名
出願受付	2012 年 3 月 1 日（木）～3 月 15 日（木）必着
面接期間	2012 年 3 月 21 日（水）～3 月 28 日（水）
合格発表	2012 年 4 月 2 日（月）

2012 年度春季（二次募集）

対象	2012 年度 4 月入学者
募集人員	若干名
出願受付	2012 年 4 月 2 日（月）～4 月 13 日（金）必着
面接期間	2012 年 4 月 16 日（月）～4 月 25 日（水）
合格発表	2012 年 5 月 7 日（月）

2012 年度春季（三次募集）

対象	2012 年度 4 月入学者
募集人員	若干名
出願受付	5 月 21 日（月）～5 月 31 日（木）必着
面接期間	6 月 4 日（月）～6 月 13 日（水）
合格発表	6 月 15 日（金）

2012 年度秋季

対象	2012 年度 4 月入学者および 10 月入学予定者
募集人員	12 名
出願受付	2012 年 9 月 12 日（水）～9 月 20 日（木）必着
面接期間	2012 年 9 月 21 日（金）～9 月 28 日（金）
合格発表	2012 年 10 月 1 日（月）

(2) 受講ガイダンス等の開催

正会員大学においてスーパー連携大学院の事業内容および受講生募集に関する説明会を開催した。

(3) 受講生の審査・選抜

受講生の選抜に際し，受講登録者選抜要項および受講登録者選抜審査票，受講登録者選抜実施要項を策定し，以下の受講登録者選抜委員会を実施した。

<2012 年度>

春季募集（一次募集）の出願者を対象とした受講登録者選抜委員会（富山大学）を 2012 年 3 月 27 日に開催し，受講希望者 6 名の選抜を行った。

春季募集（二次募集）の出願者を対象とした受講登録者選抜委員会（電気通信大学）を 2012 年 4 月 16 日に開催し，受講希望者 1 名の選抜を行った。

春季募集（三次募集）の出願者を対象とした受講登録者選抜委員会（電気通信大学及び秋田県立大学）を電気通信大学にて 2012 年 6 月 12 日に開催し，電気通信大学受講希望者 1 名，秋田県立大学受講希望者 1 名の選抜を行った。

秋季募集では出願はなかった。

(4) 2012 年度受講者数

	室蘭工業 大学	北見工業 大学	電気通信 大学	富山大学	大分大学	秋田県立 大学	合計(名)
博士前期課程 1 年	0	0	2	4	0	1	7
博士前期課程 2 年	0	1	4	0	0	0	5
合計	0	1	6	4	0	1	12

2. 実施プログラム

(1) カリキュラム

連携校からの科目提供により、e-ラーニングによるライブ講義およびオンデマンド講義，集合教育により以下の科目が提供された。

2012 年度 科目提供大学	前学期科目数	後学期科目数	年度合計
室蘭工業大学	0	1	1
北見工業大学	0	5	5
電気通信大学	4	12	16
富山大学	8	4	12
大分大学	0	1	1
秋田県立大学	2	2	4
計	14	25	39

(2) 集合教育

- ① “志” 教育科目の「現役社長の講話Ⅰ」（必修）を 3 月 7 日に秋田県立大学にて実施した。
- ② “志” 教育科目の「現役社長の講話Ⅱ」（必修）を 11 月 9～11 日に富山大学にて実施した。
- ③ 教養基礎科目の「国際科学技術コミュニケーション論」の一部を 11 月 30 日～12 月 1 日に電気通信大学にて実施した。
- ④ “志” 教育科目の「ベンチャービジネス論」を 1 月 12 日～1 月 14 日に大分大学にて実施した。

(3) インターンシップ

短期インターンシップを各大学の制度を活用して実施した。

(4) 研究プロポーザル

博士後期課程への進学予定受講者 1 名の研究プロポーザルを電気通信大学で実施した。審査の結果、合格とした。

(5) 教育評価

- ① スーパー連携大学院プログラムの教員の質保証として「演習，課題，レポート，試験等の実施状況アンケート」を実施した。
- ② プログラム受講生に「授業アンケート」を実施した。
- ③ 「教育評価報告書」を教育評価委員会で作成し、「演習，課題，レポート，試験等の実施状況アンケート」，プログラム受講生による「授業アンケート」等を参考に各講義担当教員へ教育評価（報告書）を実施した。

(6) 科目の増強

- ①志系科目として「現役社長の講話Ⅱ」を企画した。
- ②教養基礎科目として 2011 年度開講した「国際標準化戦略論」と「科学技術コミュニケーション論」を再編し、新たに「国際科学技術コミュニケーション論」を企画した。
- ③専門系科目は 2011 年度開講した 20 科目を再編・企画し、35 科目を提供した。

(7) 履修管理, 成績管理

- ①受講生の履修・成績管理をコンソーシアム事務局にて行い、学期毎に学業成績証明書を発行した。
- ②博士後期課程からの編入受講生の受け入れのため、編入受講生募集要項を作成し募集を行った。

(8) 学修・教育目標達成度評価

学修・教育目標達成度評価の評価ルーブリックを作成し、受講登録時および年度終了時(3月)に受講生に対し学修・教育目標達成度評価を行うとともに、指導教員から見た受講生の評価も行った。

(9) 学習管理システムの構築・運用

- ①新規の受講生用 ID の作成：2012 年度春季のスーパー連携大学院プログラム受講生募集(一次・二次・三次)の合格者の ID を作成し、それぞれ通知を行った。
- ②各大学用 ID・パスワードの作成：科目ごとに、講義担当教員 ID、学生用の共用 ID・個人用 ID を作成し、講義担当教員へ配布した。また、それらをまとめて各大学 e-ラーニング担当者へ送付した。
- ③開講科目用 Web ページの作成：前学期 16 科目、後学期 25 科目(集中授業 1 科目分を含む)のライブ講義・オンデマンド講義 Web ページを作成した。
- ④web コンテンツファイルの整理・提供：e-ラーニングでライブ講義・オンデマンド講義を行った科目に関して、講義ページや掲載した資料にアクセスしたログファイルを取得し、受講生等利用者の視聴状況やコンテンツ利用状況が確認できるように整理して、各講義の担当教員へ送付した。

(10) e-ラーニングシステムの改善

- ①e-ラーニング用サーバー機の移設とシステムの管理・運用委託：e-ラーニング用サーバー機を外部管理業者に移設し、併せて e-ラーニングシステム(LMS を含む)の管理・運用を委託した。専用のビジネス回線を用いて運用し、セキュリティ管理、死活・疎通監視、異常検知、エラー復旧、ID 管理、コンテンツ管理、利用者対応、履歴管理等を行うこととした。
- ②サーバー予備機を使用した構成の設置：e-ラーニングシステムのサーバー機を現用・予備の二重構成として、現用機の障害等が発生した場合に直ちに予備機に切り替えることにより、運用の中断を可能な限り短縮するためのシステム構成へ改良した。
- ③動画変換専用マシンの設置：講義収録データのオンデマンド受講コンテンツへの返還を自動化するため、FLV 変換専用マシンを新規に設置し、自動変換ソフトウェアを開発・実装した。
- ④遠隔地からの動画変換方法の改良：講義を実施する遠隔地から、講義収録ファイルを上記 FLV ファイルに講義名等の関連情報を付してオンデマンド受講用ファイルとして LMS に自動的に登録するためのソフトウェアの改良を行った。
- ⑤LMS の運用について下記 11 項目の作業のマニュアル化
 - ・講義担当教員用 ID の作成・準備、担当教員への通知
 - ・各講義視聴用 ID・講義視聴ページの作成・準備
 - ・新入生の ID 作成・準備

- ・特別聴講学生の ID 作成・準備

- ・配信担当者への報告

- ・ID 等追加・停止の対応

- ・視聴ログファイル作成，講義ページの移行

⑥一般的なビデオファイルの取り込みに関する検討：一般的なデジタルビデオカメラで撮影された動画を，e-ラーニングシステムに取り込む方法について検討し，確立した。

(11) 受講に関するマニュアルの整備 (HP) <http://www.super-daigakuin.jp/manual.html>

①視聴者用説明書（受講生向け）更新・掲載（4/19）

<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/elmanual-student.pdf>

②端末システム操作説明書（講師・補助作業員向け）更新・掲載（4/23）

<http://www.super-daigakuin.jp/private/pdf/elmanual-system.pdf>

③P4Web Vivid 取扱説明書（講師・補助作業員向け）更新・掲載（4/23）

<http://www.super-daigakuin.jp/private/pdf/P4WebVivid.pdf>

④ライブ講義視聴方法（試聴者向け）更新・掲載（4/23）

<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/live-trial.pdf>

⑤オンデマンド視聴方法（受講生・試聴者向け）更新・掲載（4/23）

<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/ondemand.pdf>

⑥休講情報等記載方法説明書（講師・補助作業員向け）作成・掲載（5/11）

<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/e-kyuukou.pdf>

⑦ライブ講義受講方法（受講生向け）更新・掲載（4/23，10/24）

<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/live-student.pdf>

3. 受講生支援

- ・2012 年度の集合教育（4 科目）の開講にあたり，受講生 22 名分の旅費を支給した。

- ・博士後期課程受講生が研究に専念するための支援の一つとして受講生奨学金制度について検討を行い，2013 年度実施することにした。

- ・受講生の支援体制として支援項目毎にメンターを配置するための検討を行い，2013 年度から実施することにした。

平成 25 年度(2013 年度)

1. 受講生募集

(1) 受講生募集

2013 年度春季募集として 2013 年 4 月入学者および入学予定者，秋季募集として 10 月入学者および入学予定者を対象として受講生の募集を行った。

2014 年度受講生の募集に際して，募集要項，履修要覧，講義一覧（カリキュラム表），共同研究テーマリスト，協力教員（研究室）一覧を準備し，正会員大学に配布した。また，同資料をホームページにも掲載した。

2013 年度春季（3 月期・4 月期及び編入受講生募集）

対象	2013 年度 4 月入学予定者
募集人員	12 名（3 月期・4 月期合計）
出願受付	3 月期：2013 年 3 月 1 日（金）～3 月 15 日（金）必着 4 月期：2013 年 4 月 1 日（月）～4 月 12 日（金）必着
面接期間	3 月期：2013 年 3 月 18 日（月）～3 月 29 日（金） 4 月期：2013 年 4 月 15 日（月）～4 月 26 日（金）
合格発表	3 月期：2013 年 4 月 1 日（月） 4 月期：2013 年 4 月 30 日（火）

2013 年度秋季（9 月期及び編入受講生募集）

対象	2013 年度 10 月入学予定者
募集人員	若干名
出願受付	2013 年 9 月 2 日（月）～9 月 13 日（金）（必着）
面接期間	2013 年 9 月 17 日（火）～9 月 27 日（金）
合格発表	2013 年 10 月 1 日（月）

（2）受講ガイダンス等の開催

正会員大学においてスーパー連携大学院の事業内容および受講生募集に関する説明会を開催した。

（3）受講生の審査・選抜

受講生の選抜に際し、受講登録者選抜要項および受講登録者選抜審査票、受講登録者選抜実施要項を策定し、以下の受講登録者選抜委員会を実施した。

<2013 年度>

3 月期募集の出願者を対象とした受講登録者選抜委員会（秋田県立大学）を 2013 年 3 月 27 日に開催し、受講希望者 1 名の選抜を行った。

4 月期募集の出願者を対象とした受講登録者選抜委員会（電気通信大学、富山大学、大分大学）を電気通信大学にて 2013 年 4 月 25 日に開催し、受講希望者 14 名の選抜を行った。

（4）2013 年度受講者数

	室蘭工業 大学	北見工業 大学	電気通信 大学	富山大学	大分大学	秋田県立 大学	合計(名)
博士前期課程 1 年	0	0	7	4	2	1	14
博士前期課程 2 年	0	0	2	4	0	1	7
博士後期課程 1 年	0	0	2	0	0	0	2
合計	0	0	11	8	2	2	23

2. 実施プログラム

（1）カリキュラム

連携校からの科目提供により、e-ラーニングによるライブ講義およびオンデマンド講義、集合教育により以下の科目が提供された。

2013年度 科目提供大学	前学期科目数	後学期科目数	年度合計
室蘭工業大学	2	0	2
北見工業大学	0	5	5
電気通信大学	6	8	14
富山大学	10	4	14
大分大学	0	2	2
秋田県立大学	2	2	4
計	20	21	41

(2) 集合教育

- ① “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅲ」（必修）を7月26日～28日に大分大学にて実施した。
- ② 教養基礎科目の「国際科学技術コミュニケーション論」の一部を9月27日～28日に電気通信大学にて実施した。
- ③ 地域学の「大分地域における生物系資源の利用技術」の一部を10月14日に秋田県立大学で実施した。
- ④ 教養基礎・応用科目の「ロジカルシンキング入門・実践講座」を、10月19日～20日、11月30日～12月1日に富山大学で実施した。
- ⑤ “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅱ」（必修）を11月15～17日に富山大学にて実施した。
- ⑥ “志”教育科目の「ベンチャービジネス論」を2014年1月11日～13日に大分大学にて実施した。
- ⑦ “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅰ」（必修）を2014年3月5～7日に秋田県立大学にて実施した。

(3) インターンシップ

短期インターンシップを各大学の制度を活用して実施した。

(4) 研究プロポーザル

博士後期課程への進学予定受講者2名の研究プロポーザルを審査するため、3月10日に電気通信大学にて2013年度研究プロポーザル発表会を実施し、審査の結果2名を合格とした。

2013年度の研究プロポーザル発表会では、会員企業のJNC(株)宮澤和利氏の特別講演と受講生の研究をポスター形式で発表を行った。

(5) 教育評価

- ① スーパー連携大学院プログラムの教員の質保証として「演習、課題、レポート、試験等の実施状況アンケート」を実施した。
- ② プログラム受講生に「授業アンケート」を実施した。
- ③ 「教育評価報告書」を教育評価委員会で作成し、「演習、課題、レポート、試験等の実施状況アンケート」、プログラム受講生による「授業アンケート」等を参考に各講義担当教員へ教育評価（報告書）を実施した。

(6) 科目の増強

- ① 志系科目として新たに「現役社長の講話Ⅲ」を実施し、「現役社長の講話Ⅳ」、「現役社長の講話Ⅴ」、「現役社長の講話Ⅵ」を企画した。
- ② 教養科目として新たに「MOT基礎論」、「ロジカルシンキング入門・実践講座」を実施した。
- ③ 専門系科目は2012年度開講した35科目を再編・企画し、38科目を提供した。

(7) 履修管理, 成績管理

- ①受講生の履修・成績管理をコンソーシアム事務局にて行い、学期毎に学業成績通知書を発行した。
- ②博士後期課程からの編入受講生の受け入れのため、編入受講生募集要項を作成し募集を行った。

(8) 学修・教育目標達成度評価

学修・教育目標達成度評価の評価ルーブリックの改定を行い、受講登録時および年度終了時(3月)に受講生に対し学修・教育目標達成度評価を行うとともに、指導教員から見た受講生の評価も行った。

(9) 学習管理システムの運用・改善

- ①学習管理システムの運用：2013年度前学期・後学期の講義開始・終了時の学習管理システムの運用作業を外部管理業者へ委託した。
- ②視聴ログファイルの作成：eラーニングで受講した科目のログファイルを整理し、受講生等利用者の視聴状況やコンテンツ利用状況として各講義の担当教員へ送付した
- ③学習管理システムの改善(ページレイアウト)：ライブ講義・オンデマンド講義の掲載ページについて、利用者にわかりやすいようページレイアウトの改善を行った。
- ④学習管理システムの改善(アーカイブ利用)：オンデマンド講義のアーカイブについて、管理者権限を持つ利用者以外からの視聴希望に対応しやすいよう、ページの閲覧権限と受講生登録方法についての改善を行った。
- ⑤学習管理システムの改善(出欠管理)：担当教員より、ライブ講義の受講生の出欠管理について講義開始時に確認できるよう Skype を利用した出欠管理方法を用意した。

(10) eラーニングシステムに関する運用・改善

- ①不具合・問い合わせ対応：実施された講義について、eラーニングシステムに関する担当教員・事務担当者・受講生等からの不具合報告・問い合わせに対して、事務局を経由して、担当教員、受講生への連絡と管理委託業者への対応を行った。
- ②板書を利用した講義方法：担当教員よりホワイトボード等を利用して講義を行いたい旨の要望があり、機器のセッティング方法や収録後の設定方法について検討を行い、eラーニングシステムのマニュアル外の利用方法として用意した。

(11) 受講に関するマニュアル類の作成・更新 (HP) <http://www.super-daigakuin.jp/manual.html>

- ①視聴者用説明書(受講生向け)更新・掲載(12/19, 3/25)
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/elmanual-student.pdf>
- ②端末システム操作説明書(講義実施者向け)更新・掲載(4/23, 9/25, 12/19, 3/25),
<http://www.super-daigakuin.jp/private/pdf/elmanual-system.pdf>
- ③ライブ講義受講方法(受講生向け)更新・掲載(10/24, 12/19, 3/25)
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/live-student.pdf>
- ④オンデマンド視聴方法(受講生向け)更新・掲載(3/20)
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/ondemand.pdf>
- ⑤講義担当教員向け手引書(講義実施者向け)作成・掲載(3/19)
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/live-question.pdf>
- ⑥板書利用の手引書(講義実施者向け)作成・掲載(3/26)
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/whiteboard.pdf>

⑦詳細情報・資料・課題等の掲載方法（講義実施者向け）作成・掲載（4/1, 10/25）

<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/moodle-manual.pdf>

3. 受講生支援

- ・博士後期課程受講生が研究に専念するための支援の一つとして受講生奨学金制度を設け、博士後期課程の2名の受講生に対し奨学金を支給した。
- ・2013年度の集合教育（7科目）の開講にあたり、受講生43名分の旅費を支給した。
- ・受講生の支援体制として支援項目毎にメンターを配置した。

平成26年度(2014年度)

1. 受講生募集

(1) 受講生募集

2014年度春季募集として2014年4月入学者および入学予定者、秋季募集として10月入学者および入学予定者を対象として受講生の募集を行った。

2015 受講生の募集に際して、募集要項、履修要覧、講義一覧（カリキュラム表）、共同研究テーマリスト、協力教員（研究室）一覧を準備し、正会員大学に配布した。また、同資料をホームページにも掲載した。

2014年度春季（3月期・4月期及び編入受講生募集）

対象	2014年度4月入学予定者
募集人員	若干名（3月期・4月期合計）
出願受付	3月期：2014年2月28日（金）～3月14日（金）必着 4月期：2014年4月1日（火）～4月15日（火）必着
試験期間	3月期：2014年3月17日（月）～3月28日（金） 4月期：2014年4月16日（水）～4月25日（金）
合格発表	3月期：2014年4月1日（火） 4月期：2014年5月1日（木）

2014年度秋季（9月期及び編入受講生募集）

対象	2014年度10月入学予定者
募集人員	若干名
出願受付	2014年9月1日（月）～9月12日（金）（必着）
試験期間	2014年9月16日（火）～9月26日（金）
合格発表	2014年10月1日（水）

(2) 受講ガイダンス等の開催

正会員大学においてスーパー連携大学院の事業内容および受講生募集に関する説明会を開催した。

(3) 受講生の審査・選抜

受講生の選抜に際し、受講登録者選抜要項および受講登録者選抜審査票、受講登録者選抜実施要項を策定し、以下の受講登録者選抜委員会を実施した。

<2014年度>

4月期募集の出願者を対象とした受講登録者選抜委員会（電気通信大学、富山大学、大分大学）を電気通信大学にて2014年4月24日に開催し、受講希望者7名の選抜を行った。

(4) 2014 年度受講者数

	室蘭工業 大学	北見工業 大学	電気通信 大学	富山大学	大分大学	秋田県立 大学	合計(名)
博士前期課程 1 年	0	0	2	2	3	0	7
博士前期課程 2 年	0	0	7	4	2	1	14
博士後期課程 1 年	0	0	1	1	0	0	2
博士後期課程 2 年	0	0	2	0	0	0	2
合計	0	0	12	7	5	1	25

2. 実施プログラム

(1) カリキュラム

連携校からの科目提供により、e-ラーニングによるライブ講義およびオンデマンド講義，集合教育により以下の科目が提供された。

2014 年度 科目提供大学	前学期科目数	後学期科目数	年度合計
室蘭工業大学	2	1	3
北見工業大学	1	4	5
電気通信大学	8	9	17
富山大学	11	4	15
大分大学	3	4	7
秋田県立大学	3	3	6
計	28	25	53

(2) 集合教育

- ① “志” 教育科目の「現役社長の講話Ⅲ」（必修）を 8 月 1 日～3 日に大分大学にて実施した。
- ② “志” 教育科目の「現役社長の講話Ⅳ」（必修）を 8 月 20 日～22 日に北見工業大学にて実施した。
- ③ “志” 教育科目の「現役社長の講話Ⅴ」（必修）を 9 月 16 日～18 日に室蘭工業大学にて実施した。
- ④ “志” 教育科目の「現役社長の講話Ⅵ」（必修）を 9 月 24 日～26 日に電気通信大学にて実施した。
- ⑤ 教養基礎・応用科目の「国際科学技術コミュニケーション論」の一部を 9 月 26 日～27 日に電気通信大学にて実施した。
- ⑥ 教養基礎・応用科目の「ロジカルシンキング入門・実践講座」を、10 月 4 日～5 日、10 月 18 日～19 日に富山大学で実施した。
- ⑦ 地域学の「大分地域における生物系資源の利用技術」の一部を 11 月 3 日に大分大学で実施した。
- ⑧ “志” 教育科目の「現役社長の講話Ⅱ」（必修）を 11 月 21 日～23 日に富山大学にて実施した。
- ⑨ “志” 教育科目の「ベンチャービジネス論」を 2015 年 1 月 10 日～12 日に大分大学にて実施した。
- ⑩ “志” 教育科目の「現役社長の講話Ⅰ」（必修）を 2015 年 3 月 4 日～6 日に秋田県立大学にて実施した。

(3) 英語特別プログラム

英語能力の向上を図るため、夏休み期間中を利用し英語特別プログラムを 8 月 5 日～7 日、8 月 27 日～29 日、9 月 2 日～4 日に電気通信大学にて実施した。

(4) インターンシップ

短期インターンシップを各大学の制度を活用して実施した。

(5) 研究プロポーザル

博士後期課程への進学予定受講者 5 名の研究プロポーザルを審査するため、3 月 3 日に電気通信大学にて 2014 年度研究プロポーザル発表会を実施した。

(6) 教育評価

- ①スーパー連携大学院プログラムの教員の質保証として「演習、課題、レポート、試験等の実施状況アンケート」を実施した。
- ②プログラム受講生に「授業アンケート」を実施した。
- ③「教育評価報告書」を教育評価委員会で作成し、「演習、課題、レポート、試験等の実施状況アンケート」、プログラム受講生による「授業アンケート」等を参考に各講義担当教員へ教育評価（報告書）を実施した。
- ④「教育評価報告書」の評価項目の一部改定を行い、2014 年度後学期分から実施する。

(7) 科目の増強

- ①志系科目として新たに「現役社長の講話Ⅳ」、「現役社長の講話Ⅴ」、「現役社長の講話Ⅵ」を実施し、新たな志計科目の提供について企画・検討した。
- ②専門系科目は 2013 年度開講した 38 科目を再編・企画し、40 科目を提供した。地域学科目として新たに「富山地域学」を開講し、他の地域における提供科目の企画・検討をした。

(8) 履修管理、成績管理

受講生の履修・成績管理をコンソーシアム事務局にて行い、学期毎に学業成績通知書を発行した。

(9) 学修・教育目標達成度評価

学修・教育目標達成度評価の評価ルーブリックの改定を行い、受講登録時および年度終了時（3 月）に受講生に対し学修・教育目標達成度評価を行うとともに、指導教員から見た受講生の評価も実施した。

(9) PDCA によるプログラムの検証（資料 40）

- ①受講生募集要項、履修要覧の改定を審議し、2015 年度より運用予定。
- ②長期インターンシップの定義と評価方法を改定した。
- ③教員に対する各大学における評価（インセンティブ）の検討を各大学長に依頼した。

(10) 学習管理システムの運用・改善

- ①学習管理システムの運用：学習管理システムの運用作業を外部管理業者へ委託した。
- ②視聴ログファイルの作成：e-ラーニングで受講した科目のログファイルを整理し、受講生等利用者の視聴状況やコンテンツ利用状況として各講義の担当教員へ送付した。
- ③学習管理システムの改善（ページレイアウト）：学習管理システムのトップページについて、「訪問者別メニュー」を用意して利用者の利便性を改善した。
- ④学習管理システムの改善（出欠管理）：担当教員がライブ講義の受講生の出欠管理について講義開始時に確認できるように設計した「Skype を利用した出欠管理」の運用を開始した。それに伴い、学習管理システムのライブ講義受講ページについてページ構造の改善を行った。

(11) e-ラーニングシステムに関する運用・改善

- ①不具合・問い合わせ対応：実施された講義について、e-ラーニングシステムに関する担当教員・事務担当者・受講生等からの不具合報告・問い合わせに対して、事務局を経由して、担当教員、受講生へ

の連絡と管理委託業者への対応を行った。

- ②サーバー設置場所の変更：e-ラーニングシステムサーバーの設置場所を、外部管理業者から電気通信大学情報基盤センターへ移転した。それに伴い、サーバーに関する設定の変更を行った。なお設定変更作業の一部外部管理業者へ委託した。
- ③サーバー容量不足の改善：e-ラーニングシステムサーバー内のハードディスクドライブ容量不足についての対応を外部管理業者へ委託した。
- ④マニュアルの配布：e-ラーニングシステムのマニュアルについて、最新版を印刷し、講義を担当する各大学の担当者へ配布した。

(12) 受講に関するマニュアル類の作成・更新

- ①ライブ講義試聴の手引き（試聴者対象）更新・掲載（4/23）
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/live-trial.pdf>
- ②ライブ講義手引書 作成・掲載（4/4）
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/live-teach.pdf>
- ③詳細情報・資料・課題等の掲載方法 更新・掲載（4/7, 10/7）
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/moodle-manual.pdf>
- ④端末システム操作説明書 更新・掲載（11/28）
<http://www.super-daigakuin.jp/private/pdf/elmanual-system.pdf>
- ⑤P4Web Vivid 取扱説明書 掲載（7/24）
<http://www.super-daigakuin.jp/private/pdf/P4WebVivid.pdf>

3. 受講生支援

- ・博士後期課程受講生が研究に専念するための支援の一つとして受講生奨学金制度を設け、博士後期課程の4名の受講生に対し奨学金を支給した。
- ・2014年度の集合教育（10科目）の開講にあたり、受講生46名分の旅費を支給した。
- ・英語特別プログラム（3回）の実施にあたり、受講生4名分の旅費を支給した。
- ・受講生の支援体制として支援項目毎にメンターを配置した。

平成 27 年度(2015 年度)

1. 受講生募集・選抜

(1) 受講生募集

2015年度春季募集として2015年4月入学者および入学予定者、秋季募集として10月入学者および入学予定者を対象として受講生の募集を行った。

2016年度受講生の募集に際して、募集要項、履修要覧、講義一覧（カリキュラム表）、共同研究テーマリスト、協力教員（研究室）一覧を準備し、正会員大学に配布した。また、同資料をホームページにも掲載した。

2015 年度春季（3 月期・4 月期及び編入受講生募集）

対象	2015 年度 4 月入学予定者
募集人員	若干名（3 月期・4 月期合計）
出願受付	3 月期：2015 年 3 月 2 日（月）～3 月 13 日（金） 必着 4 月期：2015 年 4 月 1 日（水）～4 月 14 日（火） 必着
試験期間	3 月期：2015 年 3 月 16 日（月）～3 月 27 日（金） 4 月期：2015 年 4 月 15 日（水）～4 月 24 日（金）
合格発表	3 月期：2015 年 4 月 1 日（水） 4 月期：2015 年 5 月 1 日（金）

2015 年度秋季（9 月期及び編入受講生募集）

対象	2015 年度 10 月入学予定者
募集人員	若干名
出願受付	2015 年 9 月 1 日（火）～9 月 11 日（金）（必着）
試験期間	2015 年 9 月 16 日（水）～9 月 25 日（金）
合格発表	2015 年 10 月 1 日（木）

（2）受講ガイダンス等の開催

正会員大学においてスーパー連携大学院の概要ならびにプログラムの説明と受講生募集に関する説明会を開催した。

（3）受講生の審査・選抜

受講生の選抜に際し、受講登録者選抜要項および受講登録者選抜審査票、受講登録者選抜実施要項を策定し、以下の受講登録者選抜委員会を実施した。

<2015 年度>

4 月期募集の出願者を対象とした受講登録者選抜委員会（北見工業大学、電気通信大学、大分大学、秋田県立大学）を、秋田県立大学出願者は秋田県立大学で 2015 年 4 月 22 日、電気通信大学ならびに大分大学出願者は電気通信大学で 2015 年 4 月 23 日、北見工業大学出願者は北見工業大学にて 2015 年 4 月 24 日に開催し、受講希望者 10 名の選抜を行った。

（4）2015 年度受講者数

	室蘭工業 大学	北見工業 大学	電気通信 大学	富山大学	大分大学	秋田県立 大学	合計
博士前期課程 1 年	3	0	4	0	0	0	7
博士前期課程 2 年	0	1	5	0	2	3	11
博士後期課程 1 年	0	0	0	0	1	0	1
博士後期課程 2 年	0	0	2	1	2	0	5
博士後期課程 3 年	0	0	2	1	0	0	3
合計	3	1	13	2	5	3	27

2. 実施プログラム

（1）カリキュラム

連携校からの科目提供により、e-ラーニングによるライブ講義およびオンデマンド講義、集合教育により以下の科目が提供された。

2015年度 科目提供大学	前学期科目数	後学期科目数	年度合計
室蘭工業大学	2	1	3
北見工業大学	1	3	4
電気通信大学	7	8	15
富山大学	8	5	13
大分大学	3	4	7
秋田県立大学	3	3	6
計	24	24	48

(2) 集合教育

- ① “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅲ」（必修）を7月24日～26日に大分大学にて実施した。
- ② “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅳ」（必修）を8月19日～21日に北見工業大学にて実施した。
- ③ “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅴ」（必修）を9月3日～5日に室蘭工業大学にて実施した。
- ④ “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅵ」（必修）を9月14日～16日に電気通信大学にて実施した。
- ⑤ 教養基礎・応用科目の「国際科学技術コミュニケーション論」の一部を9月16日～17日に電気通信大学にて実施した。
- ⑥ 教養基礎・応用科目の「ロジカルシンキング入門・実践講座」を、10月17日～18日、10月24日～25日に富山大学で実施した。
- ⑦ 地域学の「大分地域における生物系資源の利用技術」の一部を12月12日に電気通信大学で実施した。
- ⑧ “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅱ」（必修）を11月27日～29日に富山大学にて実施した。
- ⑨ “志”教育科目の「ベンチャービジネス論」を2016年1月8日～11日に大分大学にて実施した。
- ⑩ “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅰ」（必修）を2016年3月2日～4日に秋田県立大学にて実施した。

(3) 英語特別プログラム

- ① 英語能力の向上を図るため、夏休み期間中を利用し英語特別プログラムを8月24日～26日に電気通信大学にて実施した。
- ② 電子メールによる英語学習課題を3回発行した。

(4) 短期インターンシップ

短期インターンシップを各大学の制度を活用して実施した。

(5) 共同研究長期インターンシップ

共同研究長期インターンシップをD3受講者1名、D2受講者1名が実施した。

(6) サーティフィケート研究論文発表

博士後期課程修了者1名のサーティフィケート研究論文を審査するため、2016年2月29日に電気通信大学にて2015年度サーティフィケート研究論文発表会を実施した。

(7) サーティフィケート研究論文・サーティフィケート研究プロポーザル

博士後期課程修了者のサーティフィケート研究論文発表1名と博士後期課程への進学予定受講者1名の研究プロポーザルを審査するため、2016年2月29日に電気通信大学にて2015年度サーティフィケート研究論文・サーティフィケート研究プロポーザル発表会を実施した。

(8) 教育評価

- ① スーパー連携大学院プログラムの教員の質保証として「授業実施状況報告書」を実施した。

- ②プログラム受講生に「授業アンケート」を実施した。
- ③「授業実施状況報告書」の記述方式を簡素化し、自己評価（学生の理解度）の項目の追加および「教育評価報告書」の評価項目の一部改定を行い、2015年度前学期分から実施した。
- ④教育評価委員会にて、「授業実施状況報告書」、「授業アンケート」およびe-ラーニングのオンデマンド授業の視聴により「教育評価報告書」を作成し、各講義担当教員へ教育評価（報告書）を報告した。

(9) 科目の企画

地域学科目，“志”教育科目，教養基礎・応用科目およびPBL科目の新たな科目の提供について企画・検討した。

(10) 履修管理，成績管理

受講生の履修・成績管理をコンソーシアム事務局にて行い，学期毎に学業成績通知書を発行した。

(11) 学修・教育目標達成度評価

受講生に対し，受講登録時および各年度終了時に学修・教育目標達成度評価を行い，併せて指導教員から見た受講生の評価も実施した。

(12) 履修要覧の改定

PDCAによるプログラムを検証し，英語教育，短期インターンシップの単位化，専門科目の履修等を改定し，2016年度4月より運用する。

(13) 学習管理システムの運用

- ①学習管理システムの運用作業を外部管理業者へ委託した。
- ②e-ラーニングで受講した科目のログファイルを整理し，受講生等利用者の視聴状況やコンテンツ利用状況として各講義の担当教員へ送付した。
- ③学習管理システムのトップページ「訪問者別メニュー」を改良した。

(14) e-ラーニングシステムに関する運用

- ①電気通信大学情報基盤センターへ設置してあるe-ラーニングサーバーのサーバーソフト・OSのメンテナンスとデータのバックアップを外部管理業者へ委託した。
- ②e-ラーニングサーバーのFTP接続のセキュリティを強化するため正会員大学からのアクセスのみを許可する設定とした。
- ③e-ラーニングシステムに関する担当教員・事務担当者・受講生等からの問い合わせは，事務局を經由して管理業者へ委託した。

(15) 受講に関するマニュアル類の作成・更新

- ①プログラム受講生対象説明書 更新・掲載 (9/30)
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/elmanual-student.pdf>
- ②オンデマンド視聴の手引き（プログラム受講生・試聴者対象）更新・掲載 (9/30)
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/ondemand.pdf>
- ③ライブ講義受講の手引き（プログラム受講生・試聴者対象）更新・掲載 (9/30)
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/live-student.pdf>
- ④端末システム操作説明書 更新・掲載 (4/2)
<http://www.super-daigakuin.jp/private/pdf/elmanual-system.pdf>
- ⑤板書利用の手引書 掲載 (7/24)
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/whiteboard.pdf>

3. 受講生支援

- ・博士後期課程受講生が研究に専念するための支援の一つとして受講生奨学金制度を設け、博士後期課程の6名の受講生に対し奨学金を支給した。
- ・2015年度の集合教育（10科目）の開講にあたり、受講生72名分の旅費を支給した。
- ・英語特別プログラム（1回）の実施にあたり、受講生3名分の旅費を支給した。
- ・受講生の支援体制として支援項目毎にメンターを配置した。

平成28年度(2016年度)

1. 受講生募集・選抜

(1) 受講生募集

2016年度春季募集（資料41）として2016年4月入学者および入学予定者、秋季募集として10月入学者および入学予定者を対象として受講生の募集を行った。

2017受講生の募集に際して、募集要項、履修要覧、講義一覧（カリキュラム表）、共同研究テーマリスト、協力教員（研究室）一覧を準備し、正会員大学に配布した。また、同資料をホームページにも掲載した。

2016年度春季（3月期・4月期及び編入受講生募集）

対象	2016年度4月入学予定者
募集人員	若干名（3月期・4月期合計）
出願受付	3月期：2016年3月1日（火）～3月15日（火）必着 4月期：2016年4月1日（金）～4月15日（金）必着
試験期間	3月期：2016年3月22日（火）～3月31日（木） 4月期：2016年4月18日（月）～4月27日（木）
合格発表	3月期：2016年4月1日（金） 4月期：2016年5月2日（月）

2016年度秋季（9月期及び編入受講生募集）

対象	2016年度10月入学予定者
募集人員	若干名
出願受付	2016年9月1日（木）～9月9日（金）必着
試験期間	2016年9月15日（木）～9月23日（金）
合格発表	2016年10月3日（月）

(2) 受講ガイダンス等の開催

正会員大学においてスーパー連携大学院の概要ならびにプログラムの説明と受講生募集に関する説明会を開催した。

(3) 受講生の審査・選抜

受講生の選抜に際し、受講登録者選抜要項（資料42）および受講登録者選抜審査票、受講登録者選抜実施要項を策定し、以下の受講登録者選抜委員会を実施した。

<2016年度>

4月期募集の出願者を対象とした受講登録者選抜委員会（室蘭工業大学、電気通信大学）を、電気通信大学出願者は電気通信大学で2016年4月21日、室蘭工業大学出願者は室蘭工業大学で2016年4月22日に開催し、受講希望者8名の選抜を行った。

2. 実施プログラム

(1) カリキュラム

連携校からの科目提供により、e-ラーニングによるライブ講義およびオンデマンド講義，集合教育により以下の科目が提供された。

2016年度 科目提供大学	前学期科目数	後学期科目数	年度合計
室蘭工業大学	2	2	4
北見工業大学	1	4	5
電気通信大学	7	8	15
富山大学	9	4	13
大分大学	3	2	5
秋田県立大学	3	3	6
計	25	23	48

(2) 集合教育（資料 43）

- ① “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅳ」（必修）（資料 44）を 8 月 17 日～19 日に北見工業大学にて実施した。
- ② “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅲ」（必修）（資料 45）を 8 月 26 日～28 日に大分大学にて実施した。
- ③ “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅴ」（必修）（資料 46）を 9 月 6 日～8 日に室蘭工業大学にて実施した。
- ④ “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅵ」（必修）（資料 47）を 9 月 27 日～29 日に電気通信大学にて実施した。
- ⑤ 教養基礎・応用科目の「国際科学技術コミュニケーション論」の一部（資料 48）を 9 月 30 日～10 月 1 日に電気通信大学にて実施した。
- ⑥ 教養基礎・応用科目の「ロジカルシンキング入門・実践講座」（資料 49）を，10 月 15 日～16 日，10 月 22 日～23 日に富山大学で実施した。
- ⑦ “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅱ」（必修）（資料 50）を 10 月 28 日～30 日に富山大学にて実施した。
- ⑧ “志”教育科目の「ベンチャービジネス論」（資料 51）を 2017 年 1 月 6 日～9 日に大分大学にて実施した。
- ⑨ “志”教育科目の「現役社長の講話Ⅰ」（必修）（資料 52）を 2017 年 3 月 1 日～3 日に秋田県立大学にて実施した。

(3) 英語特別プログラム

- ① 英語能力の向上のため，英語特別プログラム（資料 53）を夏休み期間中を利用し 8 月 29 日～31 日に電気通信大学にて実施した。
- ② 電子メールによる英語学習課題を 52 回発行した（資料 54）。

(4) 短期インターンシップ

短期インターンシップを各大学の制度等を活用して実施した。

(5) 共同研究長期インターンシップ

共同研究長期インターンシップを D3 受講生 1 名が実施した。

(6) 教育評価

- ①スーパー連携大学院プログラムの教員の質保証として「授業実施状況報告書」を実施した。
- ②プログラム受講生に「授業アンケート」を実施した。
- ③教育評価委員会にて、「授業実施状況報告書」、「授業アンケート」および e-ラーニングのオンデマンド授業の視聴により「教育評価報告書」を作成し、各講義担当教員へ教育評価（報告書）を報告した。

(7) 科目の企画

地域学科目として新たに「オホーツク地域学」を開講し、“志”教育科目，教養基礎・応用科目，地域学科目および PBL 科目の新たな科目の提供について企画・検討した。

(8) 履修管理，成績管理

受講生の履修・成績管理をコンソーシアム事務局にて行い，学期毎に学業成績通知書を発行した。

(9) 学修・教育目標達成度評価

受講生に対し，受講登録時および各年度終了時に学修・教育目標達成度評価を行い，併せて指導教員から見た受講生の評価も実施した。

(10) e-ラーニングシステム・学習管理システムの運用と改善

- ①e-ラーニングシステムと学習管理システムの運用作業を外部管理業者へ委託した(2015 年度より継続)。
- ②e-ラーニングで受講した科目のログファイルを整理し，受講生等利用者の視聴状況やコンテンツ利用状況として各講義の担当教員へ送付した。
- ③e-ラーニングサーバーを設置している電気通信大学情報基盤センターのセキュリティ設定変更に伴い，e-ラーニングシステムの設置場所を外部管理業者事務所へと移転した。
- ④これまでのシステムの運用状況を踏まえ，新規の e-ラーニングシステムについての要求事項をまとめ，外部開発業者と新システムの検討を行った。

(11) 受講に関するマニュアル類の作成・更新

- ①ライブ講義受講の手引き（プログラム受講生・試聴者対象）更新・掲載（10/12, 3/27）
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/live-student.pdf>
- ②オンデマンド視聴の手引き（プログラム受講生・試聴者対象）更新・掲載（10/12, 3/27）
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/ondemand.pdf>
- ③プログラム受講生対象説明書 更新・掲載（1/19, 3/27）
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/elmanual-student.pdf>
- ④端末システム操作説明書 更新・掲載（1/19）
<http://www.super-daigakuin.jp/private/pdf/elmanual-system.pdf>
- ⑤ライブ講義試聴の手引き（試聴者対象）更新・掲載（3/27）
<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/live-trial.pdf>

3. 共同研究関係

平成 24 年度(2012 年度)

1. 産学官共同研究プロジェクト既存テーマの推進

(1) グリーンフロート構想研究会

「砂耕稲作研究フォーラム」に関しては、森田委員長（秋田県立大学）より育種学的課題，作物学・雑草学的課題研究課題，農業工学的課題に関する研究課題案がいくつか提案されたが，2012 年度中には具体的な絞り込み，研究会での討議に至っておらず，2013 年度に持ち越して検討を進める。

「CO2 固定を考慮した海洋研究フォーラム」に関しては、鈴木委員長（産業技術総合研究所）が日本海洋学の将来構想委員会にも参画して、グリーンフロートプロジェクトにおいて取り組むべき研究テーマの探索を行っている。

また、パワーエレクトロニクス技術を活用した電源ネットワークの実用化という観点で、SiC デバイスの活用に関する相談が大手自動車メーカーよりグリーンフロート構想研究会に持ち込まれており意見交換が行われている。

(2) 森林100年計画

正会員大学の秋田県立大学を中心とした本研究プロジェクトは、平成 24 年度文部科学省事業「地域イノベーション戦略支援プログラム」に採択され、研究者集積、人材育成プログラム、知のネットワークの3事業を推進した。

2. 産学官共同研究プロジェクトテーマの受講生への提示

2011 年度作成したスーパー連携大学院共同研究テーマ（タイプ A, B, C）一覧を最新の内容に更新し、現在の受講生及び新規受講生募集の際にホームページを通じて案内・提示を行った。

3. スーパー連携大学院協力教員（研究室）の拡充

各大学へ協力教員登録の依頼を行い2013年度の登録教員は117名となった。

4. 各大学における産学連携部門との協力体制

スーパー連携大学院コンソーシアムが参画している文部科学省大学間連携共同教育推進事業の実施にあたり、連携6大学の産学官連携ネットワークの効果的な活用が必要とされるため、各大学内の産学連携部門等の関係部署との連携を確認し、地域コアの中で新たな共同研究プロジェクトの発掘・企画が実現できるような協力体制を構築した。

5. 博士後期課程受講生への共同研究のマッチング

博士後期課程進学予定受講生より希望する共同研究先：一般財団法人日本自動車研究所（JARI）の提示があり、コーディネーターが先方との調整を行った結果、JARI との共同研究を前提とした協議を受講生とともに開始した。

平成 25 年度(2013 年度) 共同研究関係

1. 産学官共同研究プロジェクト（グリーンフロート構想研究会）の推進

スーパー連携大学院プログラムの共同研究テーマであるグリーンフロート構想を実現するためにグリーンフロート構想研究会を設置し、共同研究のもととなる具体的な研究・技術テーマの探索・検討を行っている。また、それぞれの要素技術に関するリサーチプロジェクト（研究フォーラム）を自発的に立ち上げて技術課題の検討を行っている。2013 年度は、参加大学の技術シーズをグリーンフロート構想の具体的な共同研究テーマに結びつけるため、説明会（電気通信大学）（資料 55）、地域コアフォーラムにおける詳細説明（富山大学・秋田県立大学）を行った。また、清水建設(株)技術研究所見学会（資料 56）を開催し、その中で企業・大学等関係者に普及活動を行った。

リサーチプロジェクトとしては「海洋環境研究フォーラム（資料 57）」「砂耕栽培研究フォーラム（資料 58）」を各 1 回開催した。

2. 産学官共同研究プロジェクトテーマの受講生への提示

スーパー連携大学院共同研究テーマ（タイプ A, B, C）に、企業より提案のあった事例や、2013 年度開始した共同研究の事例も新たに加えて、現在の受講生及び新規受講生募集の際にホームページを通じて案内・提示を行った。（<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/jointresearch.pdf>）

3. スーパー連携大学院協力教員（研究室）の拡充

連携大学へ協力教員（研究室）登録の依頼を行い 2013 年度の登録教員は 134 名となった。

4. 各大学における産学連携部門との協力体制

スーパー連携大学院コンソーシアムが参画している文部科学省大学間連携共同教育推進事業の実施にあたり、2013 年度設置した各地域の地域コアにおいて新たな共同研究プロジェクトの発掘・企画が実現できる協力体制を構築した。

5. 博士後期課程受講生への共同研究のマッチング

2013 年度博士後期課程進学を受講生の共同研究に関して、一般財団法人日本自動車研究所（JARI）との間で共同研究契約を締結し、共同研究を開始した。また 2014 年度博士後期課程進学予定者の共同研究先として、公益財団法人鉄道総合技術研究所との共同研究実施を調整し、2014 年 4 月より同研究所にて実施することとなった。

平成 26 年度(2014 年度) 共同研究関係

1. 産学官共同研究プロジェクト（グリーンフロート構想研究会）の推進

グリーンフロート構想研究会において、新たな共同研究テーマ発掘のため「グリーンフロートにおける水産資源を活用したビジネスモデル構築への提言」（7 月：100 名参加，資料 59）「超電導技術の産業応用とグリーンフロートへの効果的活用について」（11 月：58 名参加，資料 60）を基調テーマに状況報告会を開催し、各テーマにおける先端研究・最新技術の報告とグリーンフロート構想実現のために必要な要素技術の検討を行った。また来場者にアンケートを実施し、企業が参加を希望する共同研究テーマについての調査を行った。

2. 産学官共同研究プロジェクトテーマの受講生への提示

ホームページで公開中のスーパー連携大学院共同研究テーマ（タイプ A, B, C）に、グリーンフロート構想研究会の検討情報を加え、現在の受講生及び新規受講生募集の際にホームページを通じて案内・提示を行った。<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/jointresearch.pdf>

3. スーパー連携大学院協力教員（研究室）の拡充

連携大学へ協力教員（研究室）登録の依頼を行い2014年度の登録教員は149名となった。

4. 各大学における産学連携部門との協力体制

スーパー連携大学院コンソーシアムが参画している文部科学省大学間連携共同教育推進事業の実施にあたり、2013年度設置した各地域の地域コアより各地域企業のニーズ・各大学のシーズを収集し、その情報共有を行い、新たな共同研究プロジェクトの発掘を開始した。

5. 博士後期課程受講生への共同研究のマッチング

2014年度博士後期課程進学を受講生（2名）の共同研究に関して、1名は公益財団法人鉄道総合技術研究所にて共同研究を実施するための実習を2014年4月より開始し、共同研究テーマを調整中。他1名は、富山大学大学病院にて連携先企業も関係する共同研究プロジェクトに参画し、共同研究テーマを調整している。

また、2015年度博士後期課程進学希望者（5名）のうち、1名は株式会社TISとの共同研究実施を調整した結果、2014年7月より共同研究を開始した。他4名の進学希望者についても、富士ゼロックス株式会社等と共同研究実施について調整を行っている。

平成 27 年度(2015 年度) 共同研究関係

1. 共同研究テーマの発掘と企画

各地域の地域コアにおいて、コーディネーターが中心となり企業・大学のニーズ・シーズに関する情報収集を行い、その集約された情報についてマッチング可能性調査を行った。

各地域で収集した企業・大学ニーズ・シーズのホームページへの掲載や会員および関係先メールによる定期配信により、共同研究マッチングの促進を図った。

2. 産学官共同研究プロジェクト（国際海洋都市研究会）の推進

産学官共同研究プロジェクトを推進するために国際海洋都市研究会を設置し、グリーンフロート構想を含めた国際海洋都市実現へ向けた産学官からなる実施共同体を立ち上げるため、2015年12月～2016年3月の間、4回の国際海洋都市研究会全体委員会を開催し、グリーンフロート構想研究会の総括・今後の活動目標等を討議した。

3. 産学官共同研究プロジェクトテーマの受講生への提示

ホームページで公開中のスーパー連携大学院共同研究テーマ（タイプ A, B, C）に、国際海洋都市研究会の検討情報を加え、ホームページを通じて受講生に案内・提示を行った。

<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/jointresearch.pdf>

4. スーパー連携大学院協力教員（研究室）の拡充

連携大学へ協力教員（研究室）登録の依頼を行い2015年度の登録教員は164名となった。

<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/2015partner.pdf>

5. サーティフィケート研究の進捗管理

博士後期課程の受講生のサーティフィケート研究プロポーザルの進捗管理を行った。

また、2015年度博士後期課程D3受講生1名は、企業等とのサーティフィケート研究実績を踏まえた研究発表を行い、サーティフィケート審査会において審査され、イノベーション博士サーティフィケートが授与された。<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/webagora/webAgora20160330.pdf>

平成 28 年度(2016 年度) 共同研究関係

1. 共同研究テーマの発掘と企画

各地域の地域コアにおいて、コーディネーターが中心となり企業・大学のニーズ・シーズに関する情報収集を行い、その集約された情報についてマッチング可能性の調査を行った。

各地域で収集した企業・大学ニーズ・シーズのホームページへの掲載（資料 61）や会員および関係先メールによる定期配信により、共同研究マッチングの促進を図った。

2016年4月18日号 室蘭地域企業ニーズ情報「低温排熱の活用に関して」

2016年5月20日号 ニーズ・シーズ情報募集のご案内

2016年6月8日号 電気通信大学「オノマトペで表される見た目、手触り、味、食感などを製品・サービスとして実現する新技術」

2016年7月1日号 富山大学「ダイカスト成形性に優れた高靱性アルミニウム合金材料の開発」

2016年7月19日号 秋田県立大学「さまざまな性質をもった米澱粉の工業利用」

2016年8月4日号 電気通信大学「スーパー連携大学院受講生の研究成果紹介～画期的ながん治療・再生医療用研究ツール販売開始～」

2016年10月3日号 室蘭工業大学「様々な物質をナノサイズに粉碎！」

2016年10月18日号 北見工業大学「常識を覆す低温高性能コーティング技術」

2. 産学官共同研究プロジェクトテーマの受講生への提示

ホームページで公開中のスーパー連携大学院共同研究テーマ（タイプ A, B, C）について、ホームページを通じて受講生に案内・提示を行った。

<http://www.super-daigakuin.jp/pdf/jointresearch.pdf>

3. スーパー連携大学院協力教員（研究室）の拡充

連携大学へ協力教員（研究室）登録の依頼を行い2016年度の登録教員は172名となった。

4. サーティフィケート研究の進捗管理

博士後期課程の受講生のサーティフィケート研究プロポーザルの進捗管理を行った。